



町内の病院で反射材を配布

岩手県内では、10月25日現在で交通事故による死者の数は48人。そのうち23人が高齢者で、13人がドライバー、10人が歩行者となっています。特に、薄暮時間帯から夜間にかけて高齢者が関わる事故、なかでも歩行中、自転車走行中の事故が多く、町は、10月17日から10月31日までの高齢者の交通事故防止県民運動期間に合わせ、高齢者へ反射材の着用を推奨する運動を展開。病院などで、訪れた高齢者に反射材を配布しました。また、釜石警察署など関係機関においても、老人クラブ連合会などと連携し、高齢者向けの安全講習を開催し啓発を行っています。

### 高齢者の交通事故対策を

### 冬にかけて増えるリスク

飲酒運転の検挙状況については、当町では8月末までで4名の検挙者が出ており、免許人口当たりの検挙者数において県内市町村でワースト4位という状況になっています。大槌交番によると、検挙されている以外にも飲酒運転をしている可能性があり、憂慮すべき事態となっているとのことです。冬場は飲酒機会の増加が予想されます。飲酒運転は、絶対にやめましょう。またこれから冬にかけて、アイスバーンなどの冬道運転の危険が懸念されます。復興事業により全国各地から多くの人が町内に訪れている現在、その危険は以前にも増して高まっています。スピードを出し過ぎないのももちろんのこと、車間距離をしっかりと取るなど、より注意深い運転が必要になります。

これらの状況を踏まえ県では、12月1日から、「冬の交通事故防止県民運動」を予定しており、「冬道用タイヤの着用」「飲酒運転の根絶」「スピードダウンの徹底」「反射材用品等の活用推進」を呼びかけることとしています。



# 安全は「意識」でつくる

特集 交通安全

絶対に事故の起きない道路をつくることはできません。安全をつくりだすのは、一人ひとりの「意識」です。では、どのような「意識」が重要なのでしょうか。

### 大槌町における交通事故

今年の大槌町内における交通事故（人身事故）は、10月25日現在、16件発生しています。発生箇所は、国道で6件、県道で4件、町道で5件、駐車場が1件です。内訳を見ると、国道での事故は正面衝突が2件、追突が4件、県道での事故は、出会い頭の衝突が3件、歩行者との事故が1件です。

釜石警察署によると、事故の傾向は、道路条件や気象条件など、ある一定の条件に起因するものではなく、また場所も様々です。すなわち、これらの要因は、ドライバーや歩行者の安全確認が不十分だったことが大きく関わっています。震災後、交通量が非常に増え、事故の要因は増えています。ドライバーはもちろん、みなさんそれぞれの交通安全への意識が重要とも言えます。

### 大切な人と同じ様に自らを守る意識

県内の死亡事故を見ても、高齢者の割合が非常に高くなっています。ドライバーの方も歩行者の方もどちらも多いですが、特に歩行者の事故については、ぜひ反射材やライトをつけて頂いて、車で走っているドライバーに対して自分の姿を見せる様にしてほしいと思います。

街路灯が少なくて暗い、というお話を耳にすることがありますが、街路灯があっても車からは見えにくいものです。反射材などをつけて、自ら備える習慣を持っていただきたいです。反射材を配っていると、犬につけたり、家族にあげたりする方もいますが、大切な人と同じ様に、自分の身を守る意識を持ってください。



釜石警察署 交通課 企画係  
千葉 文明 係長

### Interview